様式第1-1号(参加農業者用)

化学肥料低減計画書

<作付概要>

作物名	作付面積(ha)
その他	
計	

<対象肥料>

秋用		春用	
----	--	----	--

※いずれかに○を付けてください

氏名(法人・組織名) _____

住所 _____

電話番号 _____

1. 実施する(してきた)取組メニューに「○」を付してください。
 2. 「令和4年度又は令和5年度の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。
 そのうち 1つ 以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	前年度までの取組	令和4年度又は令和5年度の取組
ア 土壌診断による施肥設計		
イ 生育診断による施肥設計		
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		
エ 堆肥の利用		
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)		
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)		
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用		
ク 緑肥作物の利用		
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用		
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用		
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等も含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用		
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用		
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し (ア～スに係るものを除く。)		
ソ 地域特認技術の利用()		

① 当年肥料費を記載してください。⇒私の当年肥料費は合計 _____ 円です。

② チェック欄にチェック(✓)した上で署名してください。

私は、添付した領収書(請求書)等記載の肥料(肥料費)について、以下のとおり確約します。

チェック欄

- 1. 記載の肥料は令和4年秋肥又は令和5年春肥として確実に購入し、自らの農業生産に使用します。
- 2. 本計画書及びその他の提出書類について、必要に応じて関係機関で共有することを承諾します。
- 3. 本事業に係る報告や立入り調査について、事業実施主体等から協力を求められた場合は応じます。
- 4. 取組を実施したことが確認できる資料や写真等の証拠書類について、
支援金の交付を受けた年度の翌年度から5年間保管し、事業実施主体等から求められた場合は提出します。
- 5. 以下の場合には支援金を返還すること、又は、交付されないことについて異存ありません。
 ア 本計画書及びその他の提出書類において、虚偽の内容を申請したことが判明した場合
 イ 正当な理由がなく、本計画書に記載した取組を実施していないことが判明した場合

氏名(自署) _____

(注1) 当年の肥料費は、秋用肥料については令和4年6月～10月、春用肥料については令和4年11月～令和5年2月に発注したことを証明する書類(注文票等)と、参加農業者が肥料費を支払ったことを証明する書類(領収書等)または支払い義務が生じていることを示す書類(請求書等)を提出すること。ただし、肥料の種類、数量、購入費が記載されているものに限る。

(注2) 注文によらず購入した(ホームセンターでの購入等)肥料の根拠資料(レシート等)を提出する際は、本紙裏面の様式第1-2号に、該当する肥料を一覧にとりまとめて提出すること。

化学肥料低減計画書 記入例と説明

② 支援対象の肥料を使用する作物の作付面積の計を記載、
その中で最も面積が多い作物と、その作付面積を記入。

<作付概要>

作物名	作付面積(ha)
水稻	6.0
その他	4.0
計	10.0

(ア) 合計面積の過半を占める作物がある場合
その作物と作付面積を、それ以外の作付面積を「その他」に記載してください。

<作付概要>

作物名	作付面積(ha)
水稻	4.0
白ねぎ	3.0
その他	3.0
計	10.0

(イ) 合計面積の過半を占める作物がない場合
作付面積の多い作物を2種分記載、
残りはその他に記載してください。

① 秋用と春用を別々に作成するため、どちらかに○

標準第1号(参加農業者用)

化学肥料低減計画書

<作付概要>

作物名	作付面積(ha)
○○	
○○	
その他	
計	

<対象肥料>

秋用	春用
----	----

※いずれかに○を付けてください

氏名(法人・組織名) ○○ ○○
住所 ○○町 ○○○ ○○○番地
電話番号 0859-xx-xxxx

1. 実施する(してきた)取組メニューに「○」を付けてください。
2. 「令和4年度又は令和5年度を取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	前年度までの取組	令和4年度又は令和5年度を取組
ア 土壌診断による施肥設計		○
イ 土壌診断による施肥設計		
ウ 土壌診断による施肥設計	○	○
エ 土壌診断による施肥設計		
オ 土壌診断による施肥設計		
カ 土壌診断による施肥設計		
キ 土壌診断による施肥設計		
ク 土壌診断による施肥設計	○	◎
ケ 土壌診断による施肥設計		◎
コ 土壌診断による施肥設計		
サ 可変施肥機の利用(トローンの活用等も含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用		
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用		
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し(アースに係るものを除く。)		
ソ 地域特認技術の利用()		

③ 取組メニュー2つ以上選択して○を記載
前年度までに既に2つ以上取組を行っている場合は、新しい取組を1つ以上追加、または従来の取組の強化・拡大を実施し、◎をつけてください。

※②で(イ)のとき、取組メニューが作物によって異なる場合は、それぞれについて取組欄に○を記載。その際、作物名の頭文字を○の横に記載してください。

① 当年肥料費を記載してください。⇒私の当年肥料費は合計 **○○,○○○** 円です。

- ② チェック欄にチェック(✓)した上で署名してください。
- 私は、添付した領収書(請求書)等記載の肥料(肥料費)について、以下のとおり確認します。
- チェック欄
- 1. 記載の肥料は令和4年秋肥又は令和5年春肥として確実に購入し、
 - 2. 本計画書及びその他の提出書類について、必要に応じて関係機関等と連携し、
 - 3. 本事業に係る報告や立入り調査について、事業実施主体等から協力を得る等、
 - 4. 取組を実施したことが確認できる資料や写真等の証拠書類について、
 - 5. 以下の場合には支援金を返還すること、又は、交付されないことについて異存ありません。
 - ア 本計画書及びその他の提出書類において、虚偽の内容を申請したことが判明した場合
 - イ 正当な理由がなく、本計画書に記載した取組を実施していないことが判明した場合

④ 支援金受給の対象となる秋用肥料または春用肥料の購入額を記入してください(税込)

氏名(自署) ○○ ○○

⑥ 氏名を自署することで、☑した内容を誓約したことになります

⑤ 1.~5.までの内容を確認し、内容に同意する場合はチェック欄に☑を記入してください
同意が無い場合、申請は受け付けられません

根拠資料(レシート等)を提出する際は、本紙裏提出すること。